

# 国立大学法人福岡教育大学 令和元年度完了報告書

## 1. 調査研究概要

本学附属小倉中学校では、学校教育目標「創造的実践人の育成」を目指し、校訓「創造実践」のもと、育成すべき資質・能力として「自ら創造的に学ぶ力」を設定した。それは、教科を超えた力としての総合的な資質・能力である。迫り来る難題に立ち向かうためには、学校教育における真正な文脈での学びの積み上げ、他者との協働的な問題解決、そして教科等の枠組みを超えた知の総合化による総体としての力が必要である。その育成のための教科等横断学習テーマ(学習内容)およびその学びのためのパフォーマンス課題設定の原理、方法を実証的に明らかにし、そのモデルを提案することを目標とする。今年度は、その真正な学びの理論的背景を整理した上で、教科等横断のための関連づけ類型を示し、いくつかの実践事例を示した。来年度はさらに事例蓄積の上で、真正な学習のデザインに資する評価をも含め「カリキュラム・マネジメントの手引き」として提案予定である。

### (実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
7月	調査研究概要の職員周知と共通理解 理論および先行研究の調査, 分析 生徒実態アンケート実施 試行実践に向けた教科等横断カリキュラム開発 先進校視察(大阪府高槻中学校・高等学校) CM検討会議①
8月	全国学力学習状況調査生徒質問紙結果分析 11月実践に向けた教科等横断カリキュラム開発
9月	CM検討会議② 関連学会・研究会等参加(日本社会科教育学会, 日本教育方法学会) 11月実践に向けた教科等横断カリキュラム開発
10月	CM検討会議③ 関連学会・研究会等参加(日本社会科教育学会, 日本教育方法学会) 11月実践に向けた教科等横断カリキュラム開発 2019 研究報告会用資料原稿入稿
11月	2019 研究報告会(2019 年度本校研究発表会を兼ねる) 関連学会・研究会等参加(全国社会科教育学会, 日本カリキュラム学会研究会)
12月	関連学会・研究会等参加(教育目標・評価学会)
1月	2020 年度に向けた実践研究(校内研究協議) 研究成果活用による職員研修協力(宗像市, 福津市, 鞍手郡小竹町) CM検討会議④
2月	関連学会・研究会等参加(国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会) 中間報告書(調査研究1年目の進捗, 成果等報告)の作成, 提出
3月	2020 年度研究にむけた研究スケジュール細案検討 CM検討会議④ 基底カリキュラムの構築 県・政令市教育委員会への聴き取り調査

## 2. 調査研究の内容

### 実践校【福岡教育大学附属小倉中学校】

#### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

学校研究主題：「自ら創造的に学ぶ力の育成-教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる真正な学びのデザイン-」

#### (2) 調査研究の内容

本校では、上記abc, 3つのテーマに関わって、研究主題「自ら創造的に学ぶ力の育成-教科等横断的なカリキュラム・マネジメント(以下, CM)による真正な学びのデザイン-」を設定し、研究に取り組んだ。

この調査研究では、今次改訂の重要キーワードであるCMとして、子どもにとって真正な学びを提供するための教科等横断的な学習テーマ(学習内容)を設定する方法およびその事例を開発し、提案することを目指している。

そのための具体的研究内容として、「CMの理論」「CM事例(モデル)の蓄積」「CM手順の明示」を想定している。

#### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

本研究1年次の成果(○)と課題(●)は以下の通り。

- 学校総体としてのチームによるCMを行う上で、拠って立つべき理論面の整理。
- CMの起点としての「教科等横断のための関連づけ類型」の提示。
- 教師主体の「指導(teaching)」から子ども主体の「学習(learning)」への教育観の転換
- OJTとしてのCMの意義共有
- CM事例の蓄積と検証による帰納的な成果の整理については、今後進めていく。
- 働き方改革を視野に入れた「時間コスト」の更なる削減
- 学習デザインとしての評価の在り方についての実践と検証
- 授業観の転換に伴う学習デザイン(従前の学習指導案)の示し方の工夫・改善

なお、上記課題の改善方策として、現状、次のことに取り組む予定である。

- ・大小様々なレベルでの実践を、「CMの手引き」に掲載
- ・職員研究組織の見直しと、ICT活用による打ち合わせ時間の削減及び簡略化
- ・「学習のための評価」に依拠した、子ども主体の評価方途の開発 ※ワークシートの活用
- ・ワークシートを核としたより簡便な学習デザインの提示

#### (4) 実践校における年間実施スケジュール (以下は、1に同じ)

月	取組内容
7月	調査研究概要の職員周知と共通理解 理論および先行研究の調査, 分析 生徒実態アンケート実施 試行実践に向けた教科等横断カリキュラム開発 先進校視察(大阪府高槻中学校・高等学校) CM検討会議①
8月	全国学力学習状況調査生徒質問紙結果分析 11月実践に向けた教科等横断カリキュラム開発

9月	CM検討会議② 関連学会・研究会等参加(日本社会科教育学会, 日本教育方法学会) 11月実践に向けた教科等横断カリキュラム開発
10月	CM検討会議③ 関連学会・研究会等参加(日本社会科教育学会, 日本教育方法学会) 11月実践に向けた教科等横断カリキュラム開発 2019 研究報告会用資料原稿入稿
11月	2019 研究報告会(2019 年度本校研究発表会を兼ねる) 関連学会・研究会等参加(全国社会科教育学会, 日本カリキュラム学会研究会)
12月	関連学会・研究会等参加(教育目標・評価学会)
1月	2020 年度に向けた実践研究(校内研究協議) 研究成果活用による職員研修協力(宗像市, 福津市, 鞍手郡小竹町) CM検討会議④
2月	関連学会・研究会等参加(国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会) 中間報告書(調査研究1年目の進捗, 成果等報告)の作成, 提出
3月	2020 年度研究にむけた研究スケジュール細案検討 CM検討会議④ 基底カリキュラムの構築 県・政令市教育委員会への聴き取り調査

### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

- 学校総体としてのチームによるCMを行う上で、拠って立つべき理論面の整理。
- CMの起点としての「教科等横断のための関連づけ類型」の提示。
- 教師主体の「指導」から子ども主体の「学習」への教育観の転換
- OJTとしてのCMの意義

- CM事例の蓄積と検証による帰納的な成果の整理
- 働き方改革を視野に入れた「時間コスト」の更なる削減
- 学習デザインとしての評価の在り方についての実践と検証
- 授業観の転換に伴う学習デザイン(従前の学習指導案)の示し方の改善

なお、上記課題の改善方策として、次のことを想定している。

- ・大小様々なレベルでの実践を「CMの手引き」に掲載
- ・職員組織の見直しと、ICT活用による打ち合わせ時間の削減と簡略化
- ・「学習のための評価」に依拠した、子ども主体の評価方途の開発※ワークシートの活用
- ・ワークシートを核とした簡便な学習デザインの提示

### 4. 参考資料

#### 【必須】

- ①本校研究紀要
- ②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料

#### 【任意】

- ・各種アンケート結果 (本校研究紀要)